

## 公民館を廃止・交流センター化 構想 来年四月から実施 案に質問集中

平成20年3月、「地域づくり活動のあり方」に関する報告を受けて市内各地に設置されてきた「公民館」を「交流センター」と改称する案が示されました。長い間地域づくり・人づくりの中心的役割を果たしてきた公民館を廃止、交流センターとして住民活動・地域福祉・生涯学習など多様な活動の拠点にするという構想です。これまでの公民館活動は「生涯学習」に含まれます。また施設の管理は「地域自主組織」に指定管理方式で委ねられます。来年4月から実施と言う説明に、「公民館ではないのか?」「公民館長や主事はどうなる?」「社会教育はどこで担当?」「地域自主組織が受けない時は?」「予算は?」等など大きな改革案に質疑が集中。各質疑に文書で基本回答が示されました。地域で差異があり統一できないもの、今後の協議に委ねる課題もあります。今後「市政懇談会」で意見を受けて

最終的な方向が決定されます。「地域は自分たちの力で」当然基本ですが明確な説明と適正な支援、拙速を避け理解を得ることが不可欠です。

### 公共施設使用料の設定基準(案) 21年度実施

平成19年7月の使用料の減免基準統一を受け、21年度からの使用料見直しの基本方針案が示されました。

「受益者負担の原則」で利用者の応分の負担、使用料の根拠の明確化が図られます。受益者負担が半額の施設は「公民館」「貸し館施設」。全額使用者負担は「ホール、体育館、運動場等」となります。初年度は激変緩和措置有り。いずれにしても高額負担で活動が停滞しないように定住の面からも格別配慮が必要です。



深野子供神楽教室・公民館活動の一環です。かわいく本格的な神楽に人気沸騰。あちこちから出演依頼多数あり。

## 吉田が生んだ歌人 空明・小滝 遥氏

明治30年吉田村に生まれる。大正4年旧制松江中学卒業。この当時から短歌の創作をはじめ大正6年6月短歌結社「創作社」に入社。創設者である若山牧水の指導を受ける。昭和15年山陰中央新報の前身・松陽新報社に入社。昭和29年末吉田村に帰り田部家専務となる。その間新聞人として勤める傍ら歌人として活躍。短歌の創作活動を通じて地方文化の向上に不滅の足跡を残された。昭和42年古稀を記念して島根新聞社長木幡吹月氏等の発起で斐伊川湯村温泉に歌碑が建立された。昭和45年永眠。没後一周忌に島根歌壇有志のご尽力で名著「虎耳草」(ゆきのした)を刊行。今日まで多くの短歌ファンに愛読されている。遥氏の心の友でもあった松露亭田部長右衛門氏は「もし君をして歌文を以て身を立てしめたならば必ずや日本的な作家となる人であったと

思われてならない」と空明氏の才能を惜しまれた。

思い出すごとく 白き蝶舞い戻り 虎耳草かすか咲きてゆれをり



昭和32年12月 23代田部氏等と共に芦谷峽を訪れた時の写真。写真提供岩田篤憲氏(右端は岩田氏父君)田部知事就任2年前の写真。

### 雲南病院副管理者が辞任

この3月末に副市長を辞任、雲南病院の副管理者に就任したばかりの内田氏が雲南JAの理事就任のため辞任。「医療確保に全能を傾注したい」はずだった副管理者の転身辞任騒動に落胆の声。6月議会に提案・可決された「統括副管理者設置条例」も何ともむなしなものになりました。

編集後記 合併から早や4年目。残任期も残りわずかです。定数も二十四名で決着。病院・公民館等々課題山積引き続き努力していきたいと思っております。次期選挙、拡大選挙区に心穏やかでありません。眞報頑張つて配ります。眞